

『イエスに従うとは？』

'21/04/11

聖書箇所: マルコの福音書 8 章 34 節-9 章 1 節(新約 p.82)

今日、私は皆さんに、とても大切な質問をしたいと思います。…あなたは、「キリストの弟子」ですか？それとも、ただ単に、聖書やキリスト教に強い関心があって、それで教会に来てくださっているのでしょうか？…このことは、あなたにとって、とても大切な質問です。…と言いますのは、この質問に対して、どのように答えるかで、あなたの永遠というものが違ってくるからです。

命題: 本物の、「イエス様の弟子」とは、どのような者でしょうか？

そうです！この質問は、あなたが本当に救われているかどうか？あなたの信仰が、果たして、本物かどうか？ということに係わってくる質問なのです！どうか、皆さん、できましたら、ヨハネ 6 章を開けてみてください。…ここで、イエス様は、あの「5000 人の給食」という奇蹟をなしてくださっています。それは、たった、5つのパンと2匹の魚で、5000 人以上…、ひよっとしたら、1万人もの人たちが満腹したというものです。

その後、あのガリラヤ湖での出来事があって後、どうぞ、ヨハネ 6:26-27 をご覧ください。『26 イエスは答えて言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。あなたがたがわたしを捜しているのは、しるしを見たからではなく、パンを食べて満腹したからです。27 なくなる食物のためではなく、いつまでも保ち、永遠のいのちに至る食物のために働きなさい。…」』と続いています。ここで、イエス様は、大勢の者たちの関心が、真の神様や救いといったような“霊的なこと”ではなくて、物質的なこと…、つまり、食べ物や病からの癒しなどにばかり向いているということを嘆かれます。そういったことに関しては、もう、私たち…、マルコ伝のみことばを学びながら、何度も確認してきました…。

どうぞ、今度は、ヨハネ 6:31 以降をご覧ください。『31 私たちの父祖たちは荒野でマナを食べました。『彼は彼らに天からパンを与えて食べさせた』と書いてあるとおりです。』32 イエスは彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。モーセはあなたがたに天からのパンを与えたわけではありません。しかし、わたしの父は、あなたがたに天からまことのパンをお与えになります。33 というのは、神のパンは、天から下って来て、世にいのちを与えるものだからです。』34 そこで彼らはイエスに言った。「主よ。いつもそのパンを私たちにお与えください。』35 イエスは言われた。「わたしがいのちのパンです。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者はどんなときにも、決して渴くことはありません。』

⇒ここで、話はイスラエルが経験した、あの「出エジプト」の話になっています。その当時、イスラエルの者たちは、荒野で食べ物が無くなって、『マナ』という…、神様が与えてくださった不思議なパンのような…、白いせんべいのような食べ物で、その必要が満たされていきました。もし詳しく知りたかったら、後で、出エジプト記 16 章を読んでみてください。…しかし、イエス様は、おっしゃいます！「そのような…、一時的な食べ物で満足してはならない！もっと、すべての人間に必要な『天からのパン』を欲しなさい！」って…。と言いますのは、神が与えてくださる、まことのパンは、33 節…、「世にいのちを与える…」、つまり、永遠のいのち(=救い)に繋がるものだからです。そうして、35 節でイエス様はおっしゃいます、「わたしこそが、神が与えてくださる、そのいのちのパンだ！」って…。だから、イエス様を信じ、そのイエス様に繋がる者は皆、決して、飢えることがなく…、また、決して渴くこともないのです…。

だから、イエス様は、ヨハネ 6:47 以降で、こうおっしゃいます、『47 まことに、まことに、あなたがたに告げます。信じる者は永遠のいのちを持ちます。48 わたしはいのちのパンです。49 あなたがたの父祖たちは荒野でマナを食べたが、死にました。50 しかし、これは天から下って来たパンで、それを食べると死ぬことがないのです。51 わたしは、天から下って来た生けるパンです。だれでもこのパンを食べるなら、永遠に生きます。またわたしが与えようとするパンは、世のいのちのための、わたしの肉です。』

⇒ここでも、イエス様は、ご自分こそが、神が天から遣わしてくださった『いのちのパン』である！という話をされます。もちろん、これは比喩です。例えです！イエス様は、ご自分に対する信仰の話をされたのです。…しかし、皆さんに注目してほしいところは、そのすぐ後です…。ヨハネ 6:60、『そこで、弟子たちのうちの多くの者が、これを聞いて言った。「これはひどいことばだ。そんなことをだれが聞いておられようか。』…そうやって、多くの者たちが、イエス様のみことばに躓きます。…でも、皆さん、気づいてくださいました？ここで、イエス様に対して…、そのイエス様のお言葉に対して、腹を立てたのは誰ですか？…『弟子たちのうちの多くの者』だったのです！

だから、ヨハネ 6:66、『こういうわけで、弟子たちのうちの多くの者が離れ去って行き、もはやイエスとともに歩かなかった。』とあるわけです。皆さん、お分かりになってくださいます？…この時、「私は、イエス様を信じます！私は、あなたに従います！」と言っていたはずの弟子たちの“多く”が、イエス様のお言葉…、イエス様の教えに躓いて、イエス様から離れていって、もう2度と戻ってこなかったのです…。

それだけではありません。どうぞ、今度は、ヨハネ 8 章をお開きくださいます？…ここヨハネ 8:30 で、『…多くの者がイエスを信じた。』と記されてあります。しかし、どうぞ、31 節をご覧ください。『そこでイエスは、その信じたユダヤ人たちに言われた。「もしあなたがたが、わたしのことばにとどまるなら、あなたがたはほんとうにわたしの弟子です。』

⇒いかがです？皆さん、分かってくださいます？…イエス様は、「私は、イエス様を信じます！私はイエス様に従います！」と言って、その信仰を告白した者たちの中に…、本物の私の弟子と、そうではない…、言わば、偽物の弟子がいる！ということをおっしゃっているのです。そうでしょ！

今日は、かなり前置きが長くなりましたが、今日、皆さんと一緒に考えたいことは、果たして、本物の、「イエス様の弟子」とは、どのような者なのか？ということです。もちろん、今日このメッセージを聞いてくださっている皆さんにも、いろいろな考えや意見がおりでしょう…。しかし、私たちが知りたいのは、果たして、イエス様が、どう教えてくださったか？であり…、この聖書のみことばが、どう教えてくれているか？です。…そうでしょ？

どうぞ、もしできましたら、ここヨハネ 8 章を、後でもう1度見たいので、葉か何かを挟んでおいてください。今日、私たちは、マルコ 8:34-9:1 のみことばを通して、果たして、本物の「イエス様の弟子」とは、どういった者たちなのか？ということをご一緒に学んでいきたいと思います。そうすることによって、願わくは、今日このメッセージを聞いてくださった皆さんが、イエス様の「本物の弟子」になってくださって、そうして、この地上で、神様が喜んでくださるような歩みをなしていただくだけでなく…、2000 年前のイエス様がなされたような素晴らしい証しをなして下さってくださることを願います。

どうぞ、まずは、今日のみことばである、マルコ 8:34-9:1 をご覧ください。…そこには、このように記されてあります。初めに、こちらで読ませていただきます。

8:34 それから、イエスは群衆を弟子たちと一しょに呼び寄せて、彼らに言われた。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。

35 いのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしと福音のためにはいのちを失う者はそれを救うのです。

36 人は、たとい全世界を得ても、いのちを損じたら、何の得がありません。

37 自分のいのちを買い戻すために、人はいったい何を差し出すことができるでしょう。

38 このような姦淫と罪の時代にあつて、わたしとわたしのことばを恥じるような者なら、人の子も、父の栄光を帯びて聖なる御使いたちとともに来るときには、そのような人のことを恥じます。」

9:1 イエスは彼らに言われた。「まことに、あなたがたに告げます。ここに立っている人々の中には、神の国が力をもって到来しているのを見るまでは、決して死を味わわない者がいます。」

I・イエス様の弟子になることを、心から願う者！(8:34)

このみことばが、まず、最初に教えてくれていること…、本物のイエス様の弟子は、イエス様の弟子になるということ、心から願う者であります。…良いでしょうか？イエス様の弟子になるならない？というの、あなたの意志＝あなたの選択”でもあるのです。まずは、そういったことを確認していきましょう。

●イエス様が、この話をされた 対象

まずは、ここ 34 節で、イエス様が、この話をされた“対象”について確認をいたしましょう。どうぞ、もう 1 度、今読んだ 34 節の冒頭部分に注目してみてください。そこには、このようにあります、『それから、イエスは“群衆を弟子たちといっしょに呼び寄せて”、彼らに言われた。…』って…。皆さんは、もう、よくご存知のはずです。マルコ伝をここまで学んできて、私たちは、イエス様が群衆たちと、何度か、意識的に距離を取られた、ということを知っていますでしょ？…と言いますのは、多くの群衆たちが、イエス様の教えではなくて…、イエス様のなして下さる癒しや不思議な神の奇蹟の方にばかり興味を示したからです。

しかし、この時！この時のイエス様は、意識的に、群衆たちのことを呼び寄せられました。そうでしょ！つまり、この時、イエス様は、ご自分が選ばれた 12 弟子たちだけでなく…、そこに大勢居たはずの群衆に向かって、ここ 34 節以降のみことばを語ってくださったのです。だから、ここ 34 節には、『だれでも…』とあるわけです。…そのことは、つまり、「誰でも、今日これから見ていく救いの恵みに預かれる…」そこには、神様の側の基準や線引きと言うか、「この人は良い！あの人はダメ！この人は救われる！あの人は救われ得ない！」ということは無ということなのです…。

●イエス様がなされた 質問

それと、どうぞ、もう 1 度、今読んだところのマルコ 8:34 に注目してみてください。そこで、イエス様は、『だれでもわたしについて来たいと思うなら…』ということをお話しておられます。ここで、イエス様は、12 弟子たちだけでなく…、群衆を含んだ人々の希望というか、その願いを問うておられるのです。「もし、あなたごとの内、誰でも、わたし(＝イエス・キリスト)について来たいと思うなら…」って…。

良いですか？皆さん。イエス様の弟子になるかどうか？イエス様についていこうとするかどうか？…その選択は、あなたにあります。あなたが、どうしたいか？あなたが、どう選択するか？なのです。だって、イエス様は、そのような質問を、弟子たちだけでなく…、その他の群衆たちにも聞いてくださったわけでしょ？

実は、ここ 34 節のみことばを、原語のギリシヤ語で観察してみると、「もし～なら」という条件接続詞というものが使われています。そうして、その後で、「願う」という意味のギリシヤ語(θελω)が使われています。英語で言うと、「desire」や「want」というような言葉です。つまり、ここで、イエス様は、群衆たちに向かって、もしあなたが、わたしについて来たいと願うなら…』という“質問”をして下さっているのです。

このように、私にも…、もちろん、皆さんにも、同じような選択があるのです！だから、聖書には、たくさん招きや命令があるのです。…それは、神様が、皆さんの選択を待っておられるからです。あの有名なマタイ 11:28 でも、イエス様は、こうおっしゃってくださったでしょ？『すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。』って…。もし、あなたが救われたと思うなら…、もしも、あなたが、真の神様のもとへ帰りたいと願うなら、神様は、あなたを受け入れてくださいます。しかし、その逆に、もし、あなたが「私には神様なんて必要ない！私は、今のままで良い。私は神様を信じて、変わりたくない！」と思われれば、神様は、あなたの意に反してまで…、あなたのごを救うようなことはありません。

だから、私たちは、何よりもまず、この神様のことを知って…、この神様に従っていきたい！神様によって変えられたい！と願わないといけません。もしも、あなたが願わないと、残念ながら、神様は、あなたを救うことも、変えることもなさいません…。皆さん、覚えて下さっています？イエス様が、幼少期を過ごされた、あのガリラヤのナザレに行かれた時、イエス様は、たくさんの奇蹟を行なうことができました？

⇒いいえ。マルコ 6 章には、こう記されてあります、『4 イエスは彼らに言われた。「預言者が尊敬されないのは、自分の郷里、親族、家族の間だけです。」5 それで、そこでは何一つ力あるわざを行うことができず、少数の病人に手を置いていやされただけであった。6 イエスは彼らの不信仰に驚かれた。…』(マルコ 6:4-6)と続いています。このように、イエス様に従っていこうとするなら、まず、あなたが、そういったことを心から願わないといけません！…じゃないと、神様は、私たちのことを変えてくださらないのです。

II・イエス様の命令に、従おうとする者！(8:34)

じゃあ、その次に、イエス様が教えてくださったことは何でしょう？それは、イエス様の命令に、“従おう”とする者であります。当たり前のことですが…、イエス様の弟子というのは、自分の主であるイエス様に従おうとする者なのです。ここでも、そのイエス様に従おうとする者の“意志”について問われています。だから、私たちの選択！私たちの願いが大事なのです。どうぞ、もう 1 度、ここ 34 節の後半に注目してください。そこで、イエス様は、こうおっしゃられました、『だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。』って…。

①自分を捨てる！

実は、この部分を、これまた、原語のギリシヤ語で観察してみると、3つの動詞がすべて命令形で使われてあることが分かります。まずは、「自分を捨てる！」ということ…。イエス様の弟子になるためには、私たちが持っているはずの夢や希望、そういったものをすべて、捨てるほどの覚悟が必要なのです。

だって、そうでしょ？…イエス様の弟子になるということは、イエス様を自分のご主人様とするというわけで…、じゃあ、そのご主人であるイエス様のみことばと、自分の夢や希望とが違っていたら、どうなります？イエス様の弟子になるということは、自分の願いや感情を一番に優先するのではなくて…、ただ、このイエス様にのみ従う！ということなのです。…だから、この命令は難しいのです。

でも、イエス様は、マタイ 8:24 で、こんな風に教えて下さっています、『だれも、ふたりの主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方を愛したり、一方を重んじて他方を軽んじたりするからです。あなたがたは、神にも仕え、また富にも仕えることはできません。』って…。このように、私たちが信じ仕えるべきご主人様は、1人しか居ないはずなのです。そうでしょ？

それと似たようなことを、あのパウロも、ローマ 6 章で教えてくれています。そこには、こうあります。『16 あなたがたはこのことを知らないのですか。あなたがたが自分の身をささげて奴隷として服従すれば、その服従する相手の奴隷であって、あるいは罪の奴隷となって死に至り、あるいは従順の奴隷となって義に至るのです。17 神に感謝すべきことには、あなたがたは、もとは罪の奴隷でしたが、伝えられた教えの規準に心から服従し、18 罪から解放されて、義の奴隷となったのです。』

⇒ここで、パウロは、私たち人間が信じ仕えることができる対象は、究極的には2つしか無い、と教えてくれています。一方は真の神様であり、もう一方は罪であります。かつて、生まれながらの私たち人間は皆、罪に仕え…、言わば、罪の奴隷でありました。しかし、どうぞ、17 節の表現に注目してください。私たちは、ある時に、『伝えられた教えの規準に心から服従し』たのです。…皆さん、それこそが、聖書が教える本当の信仰であり…、正しい悔い改めなのです。

②自分の十字架を負う！

その次に、イエス様がおっしゃられたのは、「自分の十字架を負いなさい！」というものでした。…こんな言い方をしますと、多くの場合、私たちクリスチャンは、イエス様が、私たちの身代わりとなってくださって、あの十字架を負ってくださったことをイメージしてしまうと思いますが、でも、それって、今の私たちだからこそ、ついイメージしてしまうことであって、この時の弟子たちには、そういった発想は一切無かったはずですよ？

ですから、ここでイエス様がおっしゃりたかったことは、そういったような…、「身代わり」ということではなくて…、私たちが、当時の重罪人たちと同じく、自分が負うべき様々な痛みや辱めから逃げない！ということです。…だって、当時、十字架にかけられた者たちは皆、そういった苦しみや辱めを経験したからです。…これも、はっきりと聖書のみことばが教えてくれていることですが、あのイエス様にしても、同じことを教えてくれています。マタイ 5:10-12、『10 義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。 11 わたしのために人々があなたがたをのり、迫害し、ありもしないことで悪口を浴びせるとき、あなたがたは幸いです。 12 喜びなさい。喜びおどきなさい。天ではあなたがたの報いは大きいから。あなたがたより前にいた預言者たちを、人々はそのように迫害したのです。』

⇒皆さん、分かってくださいますか？…一体どうして、イエス様は、義のために迫害される時に喜びなさい！とおっしゃるのでしょうか？…それは、義のために迫害されることが、私たちが救われているという証拠だからです！そうでしょ！Ⅱテモテ 3:12 でも、『確かに、キリスト・イエスにあって敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けます。』とあって、それと同じことを教えてくれています。だから、ピリピ 1:29 のみことばも、『あなたがたは、キリストのために、キリストを信じる信仰だけでなく、キリストのための苦しみをも賜ったのです。』と教えるわけです。つまり、イエス・キリストを信じる信仰と、それゆえに襲いかかってくる様々な苦しみや迫害とは、ワンセットなのです！

でも、本当に、「イエス様を信じて救われたい！」と願うような者は皆、そのような痛みや辱めに屈しません！…それなりの“覚悟”があるからです。それが、ここで、イエス様がおっしゃっておられる「自分の十字架を負いなさい！」ということなのです。マタイ 13 章で、イエス様が教えてくださったように、本当の救いというもの、如何に価値あるものか？ということを知った者は、他のどんな物を犠牲にしても、その救いを得ようとする！…と言うのは、救いには、それほどの大きな価値があるということ、本当に救われる者たちは皆、分かっているからです。

③わたし(イエス・キリスト)について来なさい！

そうして、3つ目にイエス様が教えてくださったのが、今見た2つのことを実践した上で…、その上で、私について来なさい！ということです。実は、先程言いましたように、ここには3つの動詞がすべて命令形で使われてありますが、時制だけが違っています。先の2つ…、つまり、①自分を捨てるというのと、②自分の十字架を負うというのは、アオリストという、ある種、過去のことを指す時制が使われてあります。

それに対して、このイエス様についていく！という時制だけは、現在形が使われてあります。…と云いますのは、自分を捨てるということも、自分の十字架を負うという大きな決心も、人生の中で、何度も何度も、繰り返すような決心ではないからです。…でも、それに対して、このイエス様についていく！という行為や決心だけは、私たちがイエス様を信じて以降、私たちがイエス様にお会いする、その時まで、ずっと継続していきます。だから、アオリスト…、つまり、不定過去ではなく、現在形なのです。

どうぞ、先程開いていたヨハネ 8 章のみことばを、もう一度開いてくださいますか？…先程見たように、このヨハネ 8:31 で、イエス様が、『もしあなたがたが、わたしのことばにとどまるなら、あなたがたはほんとうにわたしの弟子です』と教えてくださったように、本物のイエス様の弟子となったような者は、イエス様のみことばに

留まり続けます。本当に救われた者は、1年か2年、熱心に教会へ通ったからといって…、それで満足しません。本当に救われた…、本物の弟子は、一生、イエス様から…、また、キリストが建てられた教会からも離れることができないのです。

そして、どうぞ、今度は、41 節以降をご覧ください。『41 あなたがたは、あなたがたの父のわざを行っています。』彼らは言った。「私たちは不品行によって生まれた者ではありません。私たちに父、神がいます。」42 イエスは言われた。「神がもしあなたがたの父であるなら、あなたがたはわたしを愛するはずですよ。なぜなら、わたしは神から出て来てここにいますから。わたしは自分で来たのではなく、神がわたしを遣わしたのです。43 あなたがたは、なぜわたしの話していることがわからないのでしょうか。それは、あなたがたがわたしのことばに耳を傾けることができないからです。44 あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと願っているのです。悪魔は初めから人殺しであり、真理に立つてはいません。彼のうちには真理がないからです。彼が偽りを言うときは、自分いふさわしい話し方をしているのです。なぜなら彼は偽り者であり、また偽りの父であるからです。』

⇒ここでも、イエス様は、本物の弟子たちが持っているはずの特徴について説明してくださっています。それは、神が遣わしてくださった、イエス様のこと愛するということです。また、47 節には、『神から出た者は、神のことばに聞き従います。ですから、あなたがたが聞き従わないのは、あなたがたが神から出た者でないからです。』とあって、本物の弟子は、神様のみことばに聞き従おうとする、ということです。…でも、悲しいことに、この後、イエス様から、「本物の弟子ではない！」と言われた者たちは、イエス様の教えを理解することができず…、石を取って、イエス様のことを殺そうとするほど、イエス様に歯向かいます。…果たして、これが、イエス様を信じて、本当に救われた者の態度でしょうか！

今から私が言おうとすることですが、こんなことを言いますと、時々、「神様の恵みを疑ってはならない！」と言われる方々がおられます。しかし、そうではありません！もう、私たち…、十分見てきたように、明らかに、イエス様は、私たちが、「イエス様を信じます！」と信仰告白したとしても、それで、必ずしも、救われているとは言えない！ということを知っています。…それは、今日、見てきたようなヨハネ 6 章や 8 章のみことばも、そうだけれども、1番代表的なものは、例えば、あのマタイ 7 章、『21 わたしに向かって、『主よ、主よ』と言う者がみな天の御国に入るのではなく、天におられるわたしの父のみことばを行う者が入るのです。』というくだりです。また、それ以外でも、マタイ 25 章、そこでは、この世の終わりという話をテーマに、①賢い娘たちと愚かな娘たちの例え…、②ご主人からタラントを預かったしもべたちの話、③羊と山羊の話などもあります。

また、それ以外でも、マタイ 13 章に記されてある「種蒔きの例え」でも、イエス様は、実を結ぶことがない3つの土壌に関する警告と、その解き明かしをしてくださりました。また、ヨハネ 15 章(7-9節)で、イエス様は、『まことのぶどうの木』の例えから、その自分に繋がらない枝は、『枝のように投げ捨てられて、枯れます。人々はそれを寄せ集めて火に投げ込むので、それは燃えてしまいます。』というような警告を与えてくださっています。また、ルカ伝でも、例えば、失われた1匹の羊…、あの時、迷子になって、見つけられた羊は、救いを表現しているでしょうけれども、野に残されていた99匹の羊たちは救われていますか？…また、放蕩息子の例えでも、家出をしていった弟息子は、回心をして救われたでしょうけれども、兄の方は救われていますか？

また、その後に記されてある「金持ちとラザロ」の話では、ラザロだけが救われていて…、金持ちの方は苦しみの場所へ至ってしまいました。皆さん、どうして、あの話では、金持ちのことが、ただ「金持ち」とだけ表現されてあるかご存知ですか？…その当時、「金持ちは、神様からの祝福を受けているのだから、救われているに違いない…」そう考えられていたからです。しかし、イエス様は、「そうじゃない！金持ちだからと言って、彼らが救われているわけではない！」ということを知っていたのです！

そう考えると、イエス様の教えは、その多くが、「あなたは、本当に救われていますか？」というような警告を与えてくれているのではないのでしょうか？…違いますか？…私たちが自分たちの救いを吟味することは、神様の恵みやみことばを疑うことではありません。その神様のみことばにならって、本当に、自分自身が、その恵みに預かっているかどうかを、そのみことばに沿って吟味することなのです。

<番外> 私たちが、イエス様の弟子になるべき理由！(8:35-9:1)

正直言いまして…、「イエス様の弟子というのは、クリスチャン全般のことを指すのではない。それは、一部の特別な献身者やフルタイムの働き人を指すのだ！」という考えもあります。…しかし、もしも、そうだとすると、イエス様は、今日のみことばで、何も分かっていないような群衆たちに対して、いきなり、フルタイムの献身を…、つまり、牧師や宣教師になることを問われたのでしょうか？

⇒実は、そうじゃないということが、今日のみことばの 35 節以降で明らかになります。そこで、イエス様は、**私たちがキリストの弟子にならなければならない“理由”を2つ教えてくださっています。**ここで挙げられている理由を見てくださったなら、ここで言われている「キリストの弟子」という者たちが、フルタイムの献身者のことではなくて、イエス様を信じて救われたクリスチャンたちのことであるということを知ることが出来ます。…少々、バランスが悪くなってしまいましたが、今から駆け足で、35 節以降のみことばを見ていきましょう。

●まことのいのち(= 救い)以上に価値あるものは無い！

35 節で、イエス様は、こう教えてくださいました、『いのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしと福音のためにいのちを失う者はそれを救うのです。』…まず、ここ 35 節で、イエス様が教えてくださっているのは、2つのいのちに関することです。そうじゃないと、このみことばは解釈できません。…1つは、この地上でのいのちについて…、そして、もう1つは、永遠のいのちについて教えてくださいました。

どうぞ、皆さん。もし、できたら、**マタイ 13:44-46 をお聞きくださいますか？**そこで、イエス様は、例えを使って、天の御国と言うか、本当に救いの恵みについて理解した者が取るはずの選択について教えてくださいました。『44 天の御国は、畑に隠された宝のようなものです。人はその宝を見つけると、それを隠しておいて、大喜びで帰り、持ち物を全部売り払ってその畑を買います。45 また、天の御国は、良い真珠を捜している商人のようなものです。46 すばらしい値うちの真珠を一つ見つけた者は、行って持ち物を全部売り払ってそれを買ってしまいます。』

⇒良いでしょうか？皆さん。この地上での人生の 100 年にも満たない人生と、私たちが天国へ行って、そこで、永遠にイエス様や先に召されていった方たちと過ごせる恵みとを比べてみてください…。どちらが、価値あるのでしょうか？…比べるまでもないでしょ？だから、本当に救いの恵みについて、気づかされた者は皆、他のどんなものを犠牲にしても、なんとかして、その救いを得ようとするのです！彼らは、他の何を失っても惜しいとは思いません！…でも、本当に救われた人って、そうじゃありません？彼らは、救いというものの価値をよーく分かっているのです。

ここ 36 節のみことば…、正直言って、私は、このみことばを通して、「あなたのいのちは…、あなたの救いは、この全世界よりも価値があるのです！」というようなメッセージを2回ほど聞いたことがあります。しかし、そんなことを、このみことばは教えてはいません！ここで言われていることは、『人は、たとえ全世界を得ても、いのちを損じたら、何の得がありません。』⇒つまり、この地上で、いくら価値ある財産を手にしたとしても、まことのいのち…、天国への切符を失ってしまったら、何の意味も無いということです。

また、37 節で、『自分のいのちを買い戻すために、人はいったい何を差し出すことができるでしょう。』とイエス様が教えてくださったように、もしも、私たちが、天国への切符を手に入れることができず…、死後、あの苦しみのある場所へ下って行ってしまったら、もう、私たち…、何をしても、救いのチャンスはありません。救いとは、私たちが生かされている、今しかチャンスが無いのです！

●もう間もなく、新しい時代がやって来るから！

最後、38 節以降で、イエス様が教えてくださったことは、もう間もなく、新しい“時代”がやって来るから！ということですよ。38 節には、こうあります、『このような姦淫と罪の時代にあって、わたしとわたしのことを恥じるような者なら、人の子も、父の栄光を帯びて聖なる御使いたちとともに来るときには、そのような人のことを恥じます。』

⇒今から 2000 年前も、今の時代も、姦淫がはびこり…、罪が溢れている時代です。…と言いますのも、人々は、真の造り主であられる神様から離れ、好き好きに生きてしまっているからです。でも、そんな時代にあって、本当に救われた者たちは皆、イエス様とのみことばである聖書を恥じ入るようなことはありません！…と言うのは、本当に救われた者たちは、その偉大さを知っているからです。

でも、そのイエス様のことを恥じたり、あるいは、聖書の偉大さを分らないような者たちは、終わりの日に、そのイエス様から「知らない！」と言われる。それは、滅びを意味します。…そうして、最後のマルコ 9:1 のみことばは、少々難解です。『イエスは彼らに言われた。「まことに、あなたがたに告げます。ここに立っている人々の中には、神の国が力をもって到来しているのを見るまでは、決して死を味わわない者がいます。』

⇒ここで言われている、『神の国が力をもって到来している』というのは、このすぐ後で起こる「イエス様の変貌」について言われているのか、あるいは、教会の時代という、新しい時代に関する預言なのか、幾つかの解釈があります。…しかし、いずれにしても、彼らは、もう間もなく、大きな奇蹟を…、イエス様の偉大さを、その目で見て…、実際に、それを経験したわけですよ。

<励ましの言葉>

現代に生きる私たちも、同じですよ。私たちも、もう間もなく、イエス様が空中にまでやって来てくださって、その時、すべてのクリスチャンたちは、一瞬の内に、天にまで引き上げられて、空中で、イエス様とお会いする日が、もうすぐやって来ます。その時になれば、すべてがはっきりします。

でも、問題は、その時まで、私たちが、どのように生きていくか？です。今日のみことばで学んだように、本当に、イエス様の弟子とされた者たちは皆、心から、イエス様の弟子になりたいということを願い…、そのイエス様のみことばに、出来得る限り、従っていこう！従っていきたく！ということをお願いします。…と言いますのは、それこそが、本当に、価値あることだということを、救われた者たちは知っているからです。

今日、このメッセージを聞いてくださった皆さん…。果たして、あなたは、本当に、「キリストの弟子」とされているのでしょうか？2000 年前のあの時代も、イエス様のなしてくださる奇蹟や癒しを見たがために、イエス様の周りに居て、イエス様のメッセージを聞いているだけの者たちは、大勢おりました…。しかし、そんなことに、大した価値はありません。例え、あの時代に、イエス様に癒されたとしても、それも、一瞬のことですよ。そうでしょ？

大切なのは、私たちが、本当に、イエス様の弟子として変えられているかどうか？本当に価値あるもの…、つまり、救いを手にできているかどうか？ということのはずですよ。先週にも引用したみことばですが、I コリント 15 章で、あのパウロは、この福音の言葉をよーく考えて、この福音のことはしっかりと保てれば救われる！ということを知っていました。どうか、今一度、皆さんの救いについて…、また、本当に、自分がキリストに従おうとしている、イエス様の弟子かどうかを、この機会に吟味していただきたい～